

抱樸館を支える会 会報

18号



2016年6月1日 発行:抱樸館を支える会

今年も桜が咲きました。

抱樸館福岡の16本の桜の花が今年も満開になりました。



抱樸館福岡は当初予定していた場所から現在の多の津5丁目に場所を変更して開設されました。

現在の場所では住民の皆さんが抱樸館福岡の開設を快く受け入れてくださいました。

その象徴がこの16本の桜並木です。

抱樸館が入居者の故郷になるようにとの考えを聞かれた地域の方が、「故郷には桜が必要である」と、この桜を提供してくださいました。



抱樸館のそばには須恵川が流れており、堤

防は散歩に最適な散歩道です。桜は地域の人たちと抱樸館福岡の庭先のくつろぎスペースをつないでいます。

今年は4月8日に地域の皆さんが集い、桜の下でバーベキューを楽しめました。

この桜は、抱樸館福岡の開所に先立って、2010年4月に植樹されました。

抱樸館福岡の開所は2010年5月です。それに先立って4月23日に地域の有志の皆さんが16本の桜を寄贈してくださいました。

地域の有志の皆さん、抱樸館福岡の館長やスタッフ、NPO法人抱樸（当時は北九州ホームレス支援機構）、総勢二十数名で植樹しました。



「ファイバーリサイクル通信1号」を一緒にお届けしています。

「ファイバーリサイクル通信1号」は、先月（5月）ファイバーリサイクル賛助会員、衣類をお送りいただいた皆さんにお届けしたものです。抱樸館福岡との連携記事もあり、今回、抱樸館を支える会会員の皆様にもお届けすることにしました。

会報の中ほどに挟んでいますのでご覧ください。

抱樸館福岡の良さは退居してから発揮される。

抱樸館福岡アフター部門は2人の担当で退居者のフォローに大忙し

抱樸館福岡の退居者は800名を超えました。退居者をフォローしているアフター部門は2年前の8月に取材させていただきました(会報8号)。フォローの体制としては前回と同じ福村昇平主任と市丸さやかさんが担当されています。現在の様子を4月18日に取材しました。

——フォローの人数と退居者のお住まいについて聞かせてください。

「実際にフォローしているのは東区の400名弱を中心に福岡市内に住む600名弱です。遠く



くに引っ越した人も若干います。ほとんどの人は抱樸館福岡に居る時から生活保護を受給しており、退居後も引き続き生活保護を受給することになるので住居としては福岡市を選ぶことになりますし、私たちもその方がフォローしやすいです。また、金銭管理が難しい人には預金通帳の管理を抱樸館福岡ですることにしていきますし、アパートの予備のカギを預かる場合には近くのアパートに入居していただくこととなります」

——定期的なフォローはどのようなことをされているのですか。

「前回取材いただいた時と変わっていませんが、年賀状、春の季節便り、暑中見舞い、秋の季節便りの4回お手紙を差し上げています。それと誕生日には『お誕生日おめでとう』の電話をして、近況を確認するようにしています。『ありがとう』『あれっ、誕生日だったっけ』というような返事をいただけるのですが、皆さん電話を喜んでいただけます。この電話は9割くらいの人をフォローできています。穏やかな生活をされている場合の対応はこれだけということになります」

——ということは何か問題が起こるといことでしょうか。

「そうです。突発的に対応する日常に追われています。住居を変える場合に連絡があることはめったにありません。最近グループホームへの

引っ越しについて事前に相談があった人がいましたが、それは稀な例です。また本人から『病院に入院することになったので車で送ってもらえないか』『入院の保証人になってもらえないか』というような連絡もあります。送るのは余裕があれば対応しますが、保証人は病院とケースワーカーで話し合ってもらいます。必要な場合は抱樸館を緊急連絡先として受けるようにしています。フォローは日常から退居者の状況を把握しようと努めていますがなかなか手が回らないという状況ですね」

具体的な対応事例をお聞きしました。

Fさん：80代前半

(2012年2月入居、同年3月退居)

Fさんは東区に住まわれているのですが、用事があるということで来館しました。用事が終わったはずなのになかなか帰らず、あれこれ尋ねると「電気も止まっている。お金を貸してくれ」とのこと。認知症や統合失調症の疑いもあり、お金を立て替えた上で地域包括支援センターにつながりました。支援センターがケアマネジャーにつないでくださって、要介護1に認定され、どういう介護をするかを関係者で相談できる関係になりました。結果的に昨年1月に介護付きの施設に入所することができました。このFさんのケースはうまくいったケースです。このように適切な機関やしくみにつなぐことが大切です。

Kさんの場合

(2013年11月入居、14年5月退居)

Kさんは、「死にたい」が口癖で、よく失踪する人です。突然、通っている作業所(障害者福祉施設)から「Kさんが来られていません」という電話がかかたりしていました。長崎や宮崎から電話がかかってくることもあります。その場所にホームレス支援団体などがある場合は、お願いしてフォローしてもらおうのですが、そうでない場合は迎えに行けないので、電話で対応することになります。長崎の飲み屋さんにも居るからとかかかってきたこともあります。一度は姫路から電話がありました。迎えに行くこともで

きないので、お兄さんに連絡して迎えに行ってもらいました。つい最近東区のグループホームに入所し、グループホームを運営しているNPOの作業所に通うことになり、そこでは「Kさんは素晴らしい人である」とのことです。このグループホームには抱樸館福岡で仲が良かったNさんがいるので、落ち着くのではないかと期待しています。Kさんに限らず、話ができる人が近くにいることが大切です。Kさんのお兄さんは「金が入ったら失踪する」と言っています。

Hさん：60代前半

(2013年11月入居、14年1月退居)

Hさんは、4月7日に部屋で亡くなっていました。死後2ヶ月くらいではないかということでした。抱樸館の近くのアパートだったのに気付くことができず、本当に無念でなりません。Hさんはシェルター(一時宿泊)として入所していたので、抱樸館にいた期間はそんなに長くはありませんが、特に問題なく過ごしていました。Hさんは福岡県の出身で、別れた奥さんは北海道に、子どもさんは福岡にいますが、遺骨の引き取りを断られましたので抱樸館福岡で遺骨を引き取りました。

Sさん：60代後半

(2011年7月入居、同年8月退居)

Sさんは佐賀県の出身です。抱樸館福岡を5年ほど前に退居し、福岡市南区で生活保護を受けて一人住まいしていました。65才になって月に11万円くらいの年金をもらうようになって田舎(佐賀)に帰ることになりました。生まれ育った持家なので何とか11万円で生活できるのではないかということでした。息子さんも近くに住んでいるので、決心されたようです。Sさんは南区に住んでいる間は一度も抱樸館に来られなかったのですが、佐賀に引っ越される前に手土産を持ってあいさつに来られました。大型船舶免許を持っており「船の操縦の仕事があればありがたい」ということでした。とても良かったと思います。

Oさんの場合：70代後半

(2014年6月入居、15年9月退居)

Oさんは刑務所に15回も入ったということで刑務所暮らしが長かったようです。2年前に入居して「ジッちゃん」とみんなから呼ばれて親生まれ、1年程前に抱樸館を出ることになり

ました。年齢からいけばそのまま老人ホーム入居になるのですが、抱樸館のスタッフが、「このままでは一度も自活した生活を送ることなく人生を終わることになる。何とか一人暮らしをさせてあげたい」ということで奔走しました。ケースワーカーやアパートの家主の了解を得て、抱樸館の近くで一人暮らしをしています。登下校の見回りをもし、敬老会に入って花見会のお世話もされており、大活躍です。生きがいを見出して元気に生活しています。

——これからやりたいことを聞かせてください。

「前回もお話したのですが、退居者を定期的に訪問出来たら良いと思っています。ことが起こってからの対応では解決できないことも多いからです。また、地域の病院や福祉関係の仕事をされている方々ともっと連携できるようになると良いと思っています。ヘルパーさんは要介護者を車に乗せて病院に連れて行くという事はできないし、訪問看護師は買い物につれていけない。そんな法的な枠組みの隙間を私たちが埋めてフォローしています。そのような枠にとられない私たちの強みが発揮できればよいと思っています」

——先日「えにしの会」を取材させていただきました(会報17号)。えにしの会に期待することが大きいそうですね。

「600人近くの退居者のアフターを2人するのは厳しいのですが、退居者同士の連携ができないかと考えてきました。えにしの会は抱樸館福岡に係ってくださっている多くのボランティアの皆さんも一緒になった会ですが、運営の主体は退居者であると考えています。多くの退居者に参加いただき、退居者が支え合っているような関係になれば良いと思っています」



——退居者のフォローといっても様々な待ったなしの対応が必要であること、そして抱樸館福岡の良さは退居してからも発揮されるのだということがよく分かりました。ありがとうございました。

抱樸館福岡の食事はグリーンコープの取引先から無償提供いただく食材で支えられています。 入居者から「おいしくなった」と言われるようになりました。

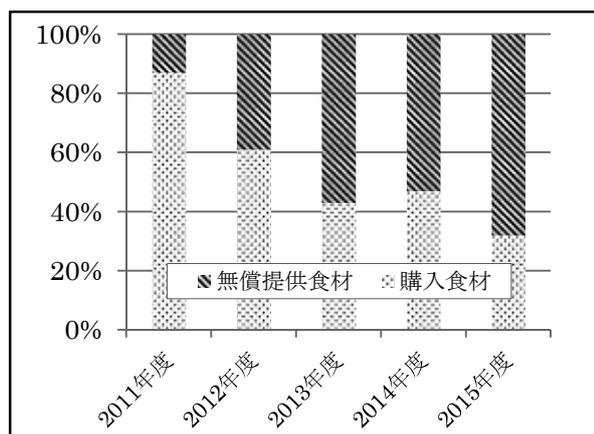
年間食材費の3分の2以上の食材を無償提供いただいています。

抱樸館福岡が開設されたのは、6年前の2010年5月です。

当初、食材はすべて購入していました。

居室が満室の場合の食材費は年間1200万円位です。

2012年1月にグリーンコープの取引先に食材提供をお願いしました。多種多様な商品を作っている生産者・メーカーから、たくさんの食材を提供いただいています。入居人数を勘案した食材の購入比率(購入食材:無償提供食材)は以下のようになっています。



2015年度の購入食材は約310万円で、7割近くの食材を無償提供いただいたことになります。

提供いただいた食材の多くはグリーンコープで販売している商品、もしくはグリーンコープが取引しているメーカーの商品です。



食材として使い始めてから入居者から「美味しくなった」「食事が楽しみになった」という声がたくさん寄せられています。抱樸館に入所して三度の食事をいただき、多くの方が健康を回復されています。

2015年度は、57社・生産者から、無償提供いただきました。

2015年度に食材の提供をいただいた取引先・生産者(グループ)は、57社です。

青果の8割くらいは生産者から無償で提供いただいています。無償提供いただいている青果は小玉などの規格外青果が中心です。

バレイショ、玉ねぎ、人参、生椎茸は年間を通して提供いただいています。

この4品目以外の根物(大根、カブ、里芋、生姜、ごぼう、さつまいも、など)、葉野菜(キャベツ、白菜、レタス、グリーンリーフ、ネギ類、小松菜など、グリーンアスパラガス、など)、果菜類(なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、スイートコーン、かぼちゃ、ゴーヤ、など)、果物(柿、みかん、中晩柑、など)

をいただいております、購入するのは葉野菜と果菜類の一部だけという状況です。

グリーンコープの生産者から提供される野菜は味が良いので、いただいた野菜を工夫していろいろなものに使っており、入居者に大好評です。

たまごは、たまごの生産者から毎週30kgを無償提供いただいています。

たまごは使う機会の多い食材のひとつです。抱樸館福岡で使うたまごはすべて無償提供いただいております、本当に助かっています。



調味料では、年間を通じて味噌醤油はグリーンコープの取引先からの無償提供分でもまかなえています。味噌・醤油は基本的な調味料で、味の決め手になるものなので、とても助かっています。

年間に無償提供いただく味噌は約600kg、醤油は350リットルになります。

食用油も年間を通じて無償提供いただいております。それ以外の調味料ではケチャップ、ソース、食酢、増し味、ポン酢、ドレッシングなどを提供いただいております。

豆腐や油揚げ、豆腐は毎週60丁(×300g)無償提供いただいています。揚げも定期的に提供いただいています。抱樸館福岡で食材の豆腐・揚げ類は、すべて無償提供いただいています。

納豆は朝食に大好評です。これも現在では提供いただいた納豆だけでまかなえています。

練り製品(かまぼこ・ちくわなど)は毎週定期的に提供いただいております、購入することはありません。



こんにやくは2015年度の途中から毎月いただけるようになり、とても助かっています。



漬物は毎週たくさん提供いただいています。食事の際、入居者が自由に食べられるようにしています。

梅干は提供いただいているものでまかなえています。

パン 週に2回はパン食です。相当安い価格で提供いただくメーカーや毎週無償提供いただいているメーカーもあり、入居者にとっても好評です。

お米は食材費の中の2～3割を占めています。2015年度は、6取引先(生産者など)から合計2020kgも提供いただきました。必要なお米の3ヶ月分くらいに相当します。



その他の食材では、麺類(乾麺、パスタなどいろいろ)、数の子・さんまのかば焼きなどの魚介類、甘納豆・クッキーなど、お餅、若鶏の加工品、ローストチキン、などを提供いただいています。

グリーンコープ連合の物流センターや青果リパック事業部からは、賞味期限内だが出荷期限を過ぎたツナフレークやお茶、ブイヨン、規格外のバナナ、りんご、にら、白菜、生姜、小松菜などを提供いただいています。

提供いただいている取引先名・生産者名は、感謝を込めて1年分をまとめて、抱樸館福岡の食堂にお名前を紹介させていただくことにしています。

厨房職員の工夫で美味しい食事になります。

食材は計画的にいただいているもの、長期保存できるものだけではありません。「予期せぬ嬉しい提供」があります。同じものの量が多い場合や、賞味期限が迫っているものもあります。

それからが厨房職員の腕の見せどころです。みんなでオリジナリティを持ってやるようにしています。

ごぼうをたくさんいただいたので、かき揚げ、キンピラ、サラダ、チップにしてサラダのトッピング、炊き込みご飯、タタキにして酢ごぼう、コチジャン漬け、裏ごしにしてさつまいもと一緒にポタージュスープにするなどの工夫をしました。



さつまいももたくさんいただいたので、天ぷら、ポタージュスープ、芋ごはん、大学芋などを作りました。大学芋は入居者に大好評です。

いろいろ予期しない野菜をいただくのを楽しみながら待っています。厨房スタッフのミーティングでも、いただいた食材を生かして、和・洋・中華などにとらわれずに工夫しようと相談しています。

ーグリーンコープ取引先の皆様へー 食材提供にあたってのお願い

- ・GCブランドである必要はありません。グリーンコープの基準でなくても構いません。
- ・出荷期限が過ぎていても、賞味期限内であれば、工夫して使います。
- ・食べものでない家庭雑貨なども是非お願いします。石鹸やシャンプー、トイレトーパーなど日常生活で使うものもいただけるととてもうれしいです。
- ・食材等を提供いただける場合は、後掲(P8)の抱樸館福岡の「食材担当」までご連絡ください。

抱樸館の食堂に涼風を：緑のカーテン作りをしました(5月27日)

抱樸館福岡の食堂は、日当たりがよく気持ちよく過ごせる場所ですが、夏はとても暑いんです。そこで緑のカーテンを植えようという話が「つくしのつどい」で持ち上がりました。

つくしのつどいは、えにしの会(抱樸館福岡ボランティア部)の世話役さんの集まりです。えにしの会は、抱樸館福岡の卒業生45名、抱樸館福岡の退居者や抱樸館福岡で行われている生け花やパステル画、健康相談会などのボランティア活動を支援くださっている皆さん、抱樸館スタッフなど総勢約67名の会です。

5月27日は、つくしのつどいのメンバー8名と抱樸館のスタッフなど12～3名が作業に参加しました。作業は11時からだったのですが、待ちきれずに朝8時から来られた方もおられたということです。



緑のカーテンにするのはゴーヤと朝顔です。ゴーヤは苗を購入、朝顔は抱樸館の塀際に種まきしたものを移植します。

全部ゴーヤにするかどうかを話し合い、「喫煙所に近い場所ではゴーヤはまずいのではないか」ということで朝顔になったようです。



11時になり打ち合わせをして作業開始です。

プランターの底に網を敷き、あらかじめ用意した土を入れて苗を植えていきます。



「苗を据えて横に土を入れる」、「土に穴を開け、苗を植える」など、指示出しする船頭が沢山いてにぎやかです。更に“ゴーヤチャンプルーが好きだ、だれが料理するか”など話は広がります。



次はネットを張ります。ネットは4×5mにしたものを、まず2階か

ら垂らします。2階のベランダに2人が上がってヒモでネットを引き、固定します。この作業のにぎやかしいこと。



地上側はネットをペグ(金具)で止めます。ゴーヤに支柱を立てて完成です。

おっと、苗が余ったようです。



3本余ったので、サークルベンチのシマトネリコの樹の根元に定植です。なんとなくゴーヤが伸びてこの木から実が垂れ下がってくるような気がしてきました。

更に余った朝顔の苗をプランターに植えて、駐車場との境のフェンスの下に置きます。



約1時間半の作業を終えて、最後にみんなで写真を撮りました。



ちょうど昼食の時間です。入居者の皆さんも何事かと興味津々のようです。

この夏、抱樸館福岡を見学される皆さん、是非緑のカーテンがどうなっているかを確認ください。

会報でも続報をお届けします。



つながる・支える
ほうぼくかん
抱樸館福岡
2016年

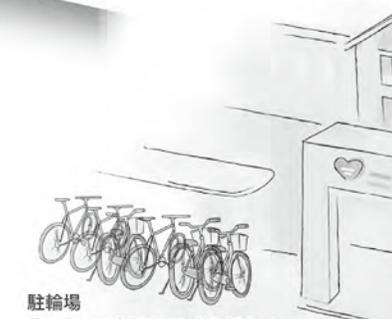


見学受入
2015年度はグリーンコープ組合員をはじめ地域の民生委員等、39組の見学がありました。抱樸館を見て聞いて一人でも多くの方に知っていただきたいと思います。

1階



会議室
応接室
事務室



駐輪場
貸し出し用自転車20台と個人で持っている自転車、合計50台位あります。入居者は自転車でお出掛けが多いです。

2階



全室個室で一人で落ち着ける空間です。

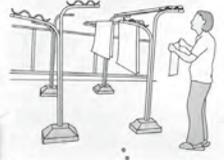


浴室

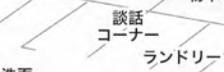
相談室

地域清掃
平日の朝に職員と入居者のみなさんと地域清掃を行っています。

3階



ランドリーコーナー
1-Fと2-Fに洗濯機と乾燥機があり、朝8時から夜10時まで利用できます。



物干し場
ランドリー
洗面コーナー
相談室



理容室



相談室
全4室。自立に向けての聞き取りや、健康相談、債務相談、法律相談等を行っています。



談話コーナー

各階の談話コーナーにはTV、雑誌、将棋等が置かれ思い思いに過ごすことができます。



カフェ交流スペース

食堂はカラオケやカフェ等の交流スペースとしても活用します。



カラオケ



食堂

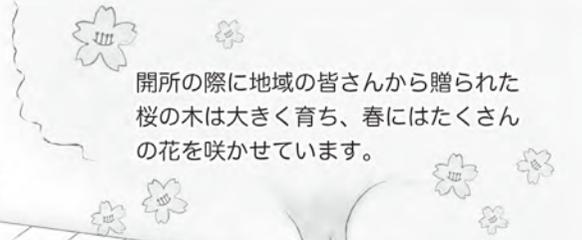


厨房
厨房スタッフが工夫をこらし、家庭で食べるような美味しい食事を作っています。三度の食事をきちんと摂ることで、多くの入居者が健康を回復しています。



ラジオ体操

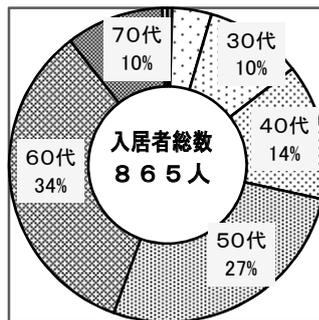
毎日朝9時から職員と入居者でラジオ体操を行っています。一日の始まりです。



開所の際に地域の皆さんから贈られた桜の木は大きく育ち、春にはたくさんの花を咲かせています。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2016年4月末までの入居者数



	人数	割合
10代	4	0.5%
20代	37	4.3%
30代	83	9.6%
40代	124	14.3%
50代	236	27.3%
60代	291	33.6%
70代	85	9.8%
80代	5	0.6%
合計	865	100.0%

2016年4月末現在の入居者

52人(定員81名) 男性52人、女性0人

2016年3～4月の新入居者数・退居者数

新入居者数12名 退居者数18名

(注: 12月末までの入居者数865人は、
2度・3度入居した人も1人と数えています。)

抱樸館下関・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内

- グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申込ください。
- 個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。
◇出来れば5名以上でお願いします。(ホームページからも見学の申込が出来ます)

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- 毎月250円の賛助会費を申し込みいただく(年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- 1口1000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日: 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員: 以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協(14生協)
- グリーンコープ連合
- NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2016年4月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 7820名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 160名
- 企業賛助会員 107社

その他(抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
- 抱樸館下関(山口県下関市) 2007年4月開所
- 抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
- 抱樸館熊本: 準備中

一般の方、グリーンコープの店舗組員

1口1000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ

担当 家原 電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-1-1

抱樸館下関 (電話 083-223-4544 FAX 電話と兼用)

〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-5-25



このファイバーリサイクル通信は、先月ファイバーリサイクル賛助会員、衣類をお送りいただいた皆さんにお届けしたものです。
抱樸館福岡との連携が良くわかる記事もありますので、抱樸館を支える会会員の皆様にもお届けします。

2016年5月1日 発行:ファイバーリサイクルセンター

ファイバーリサイクル通信について

これまで、ファイバーリサイクルセンターから年に1度【ゆう*あい通信】をお送りしていましたが、今後は会員の皆様には【ファイバーリサイクル通信】を年4回お届けすることにしました。

- ・賛助会員の皆様へ。名称を「ファイバーリサイクルを支える会会員」としていましたが、4月から「ファイバーリサイクル賛助会員」という名称にさせていただきました。会費等はこれまでと変わりません。
- ・今回の通信は、賛助会員の皆様だけでなく、これまで衣類をお送りいただいた皆様にもお届けしています。これを機会にぜひ賛助会員になっていただき、これからもファイバーリサイクルを共に支えていただけますようよろしくお願いいたします。

今回のファイバーリサイクル通信の内容

今回案内していること	ページ
ファイバーリサイクルセンター長の清水清子さんに聞く	2~3
アル・カイル アカデミーとパキスタンについて GCかごしま副理事長川上由美子さんに聞く	4~5
ゆう*あいショップ訪問 ・GCふくおか藤崎店	6
衣類の送り方案内	7
お送りいただいた衣類の量など ゆう*あいショップの案内 賛助会員の申し込み方法、ほか	8

通信の今後の掲載予定

- ①ファイバーリサイクルとはどんな取り組みなのか。
- ・国境を越えた子育て支援として
 - ・リサイクル運動として

- ・生活困窮者の自立支援に向けた就労訓練の場として
- ②ファイバーリサイクルの現状
 - ・センターに届いてからの流れ
 - ・パキスタンへの送り出し作業
 - ・送られてくる量、累計量
 - ・パキスタンに送り出した量
- ③ゆう*あいショップの案内
 - ・ショップをリストで案内
 - ・ゆう*あいショップ訪問
- ④パキスタンの様子（アル・カイルアカデミーほか）の報告
 - ・現地からの報告
 - ・グリーンコープからの視察訪問
- ⑤就労訓練の様子
- ⑥実務的なお願いなど
 - ・お送りいただく衣類の説明
 - ・伝票請求からの流れや、Q&Aなど
- ⑦賛助会員
 - ・賛助会員の会員数
 - ・賛助会員申し込み方法



賛助会員をご希望で、

自分が賛助会員かどうかわからない方へ 今回の「通信」が届いて、“私はすでに賛助会員になっているのか、あるいは衣類を送ったことがあるから通信が届いたのか？” わからない方がおられるかと思えます。

そんな方で賛助会員をご希望の方は、8ページの案内を見て賛助会員の申し込みをしてください。二重にならないように取り扱いをします。

また、ファイバーリサイクルセンター（P8に案内）に連絡いただければ、賛助会員かどうかすぐお調べします。



ファイバーリサイクルのホームページは、 [グリーンコープ ファイバーリサイクル](#) [検索](#)

ファイバーリサイクルセンターはどんなことをしているのか

センター長 清水清子さんに聞く (3月1日)



ファイバーリサイクルとはどのようなものか、またファイバーリサイクルセンターではどんなことをしているのか、なかなか分かりにくいというご意見をいただきます。

今回、センター長の清水清子さんにお聞きしました。

――清水さんはいつからこのファイバーリサイクルセンターにおられるのですか。



清水：私は、ファイバーリサイクルセンターができた2010年11月からここで働かせていただいています。

――ファイバーリサイクルの目的と作業の概略を聞かせてください。

清水：目的は、大きく3つあります。一つは、パキスタンのアル・カイル アカデミーの支援です。私たちはこれを国境を越えた子育て支援と言っています。二つ目は、就労訓練です。センターの作業を通じて、抱樸館福岡の入居者や生活困窮者の自立支援に向けた訓練を行なっています。三つ目は、衣類のリユースですね。このセンターでは無料で提供いただいた衣類を仕分けして、8割くらいをパキスタンに送りだしています。残りの約2割は国内、グリーンコープのエリア内で販売しています。

――衣類を提供してくださるのはグリーンコープの組合員ですか。

清水：グリーンコープの組合員が中心ですが、一般の人からの提供もあります。グリーンコープでは組合員向けのチラシや単協の機関紙などで案内しています。一般の人は組合員からの口コミ、それから福岡県内の市役所では「どこか衣類を受け付けているところはないか？」という問い合わせにファイバーリサイクルセンターが紹介されることがあるようです。ファイバーリサイクルセンターのホームページを見て送ってくださる人もいます。

――パキスタンのアル・カイル アカデミーの支援というのはどういうことですか。

清水：アル・カイル アカデミーの支援は、20年以上前から千葉県の日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)が行なっていました。JFSAは、パキスタンのカラチにあるアル・カイル アカデミーを支援しているNPOです。パキスタンでは貧富の差が大きく、多くの子どもたちは学校にほとんど行けないか、10歳くらいまでしか学校に通えない子供がたくさんいます。ゴミの

集積場のような場所に住んでいる人たちもいます。

このような子どもたちが通えるような学校がアル・カイル アカデミーで、ムザヒル校長先生が作った学校です。グリーンコープはこのJFSAに2006年ごろ出会い、



最初は、グリーンコープの組合員に千葉県のJFSAに衣類を送るように案内していましたが、2010年にこのファイバーリサイクルセンターを福岡に作りました。

――パキスタンに送る衣類は無料提供ではなく、買い取ってもらっているそうですね。

清水：パキスタンのカラチは古着の集積場で巨大なマーケットがあります。ここから東南アジアやアフリカにも古着が流れていきます。この市場でアル・カイル アカデミーが日本から仕入れた古着を転売して利益を得て、アル・カイル アカデミーの運営費にしています。



――支援はどうしてカンパ(お金の寄付)ではないのですか。

清水：アル・カイル アカデミーを作り運営されているムザヒル校長先生が大事にしている考え方で「施しを受けるのではなく、仕入れたものを自ら販売することにより、自立した心が生まれる」という考えなのです。また、金銭の援助は継続できないことがあるので、事業で支えるという継続的な仕組みを作りたいということです。



――提供いただいた衣類のその後の作業を教えてください。

清水：男女別や用途種類別に72種類に分けます。その上で更に二次仕分けで、パキスタンに送るものと国内販売用とに分けます。パキスタンに送るものは圧縮して50kgずつの梱包にします。

――就労訓練はどんなことをしているのですか。

清水：就労訓練は、衣類の分別作業やパキスタンへの送り出しの作業を行ないます。そして、ファイ

バーリサイクルセンターの仕事を基本に、日によって違う仕事をしてもらっている人もいます。隣接するグリーンコープ連合の物流センターで青果リパック作業、カタログ回収の車に同乗して大分製紙への搬入作業を行う、りすの森保育園への食材配達の補助作業、GCふくおか東支部での倉庫内作業などです。

――就労訓練はどのように行なうのですか。

清水：基本は就労訓練者に寄り添って訓練します。衣類の仕分け、パキスタンへ送り出し衣類の梱包、国内販売用の衣類への値付などの作業をします。他の仕事の場合も同様に訓練者と私たちが一緒に作業しています。就労訓練の基本は週3日です。この就労訓練を通じて生活のリズムを取り戻し、身支度を整える、仲間と一緒に作業する、休む時には連絡を入れるなどの基本的約束などを学び、人とのコミュニケーションを持ち、周りの人との関係もうまくいくようになっていくことを目指しています。就労訓練を通じて本人の自信につながり、抱樸館から地域に出ることができるようになります。それに寄り添っています。



――就労訓練者の様子を聞かせてください。

清水：現在8人が就労訓練をしています。これまでに102人の訓練生が旅立ちました。アルバイトなどの職を得た人が44名、共同作業所が14名、市職員の嘱託が1名、そして高齢や病気のために生活保護を受給しながら地域で生活している人が43名です。

――衣類のリユースについて聞かせてください。

清水：皆さんから提供いただいた衣類のうち約2割は国内で再利用（販売）しています。リユースは、環境と家計にやさしい取り組みでもありますし、このファイバーリサイクルという仕組みを維持するための費用を得る仕組みでもあります。お店（ゆう＊あいショップ）は全部で12店舗です。お店以外でも単協の総代会や組合員が集まる行事に出かけて行って販売することもあります。売り上げは年間2500万円くらいです。



――ところで清水センター長はグリーンコープの組合員になられたのはいつごろですか。

清水：1990年ごろだったと思います。しばらく

して地域委員長、また支部店舗委員長などをして、1998年に組合員事務局になりました。地域委員長や支部店舗委員長の時期に福祉活動組合員基金を創設するという説明会などで、その必要性について説明するのには随分苦労しました。またGCふくおかの組合員事務局の時には生活再生事業に取り組むということで説明会や地域組合員総会などで説明をしましたが、組合員から「食べ物運動に取り組む生協がどうして生活に困っている人の支援をしないといけなのか」と泣かれたこともありました。その時に「ハウスレスとホームレスの話、心の帰る家がない」話を聞き、組合員の皆さんにもこの取り組みを是非理解してもらいたいと思いました。

――ファイバーリサイクルもしくはJFSAに出会うきっかけを教えてください。

清水：組織委員会にかかわっているころ、千葉県のJFSAに「ボランティア体験」として参加しました。そこで、ファイバーリサイクルの運動を直に感じることができ、こんな仕事がしたいと思いました。また、当時はグリーンコープが千葉に送るのに高い宅配便代がかかることと、福岡に拠点を持つことにより、グリーンコープの組合員も参加しやすくなるという検討がされ、是非やりたいと思いました。

――衣類提供いただく皆さんに荷物を送る際に是非お願いしたいことがありますか。

清水：シミ・ほつれがないもの、洗濯済みのものを送ってください。受付品目にはないもの、特に布団は絶対に送らないでほしいです。「受付品目説明」が分かりにくいという意見をいただいていたので、今回分かりやすくしましたのでよろしくお願い致します。衣類は国内もしくはパキスタンで「着るもの」として販売します。日本のフリーマーケットで売られている程度のもをお願い致します。

――最後にこれからやりたいことを聞かせてください。

清水：まず、年間85トンの衣類が集まってほしいと思っています。現状は約60トンです。パキスタンに送る衣類は1回23トンですので、85トン集まると年間3回送り出せます。それから現在600名弱のファイバーリサイクル賛助会員が3000名程度になるようにしたいですね。最後に一般就労を果たした訓練者が長く働けるようなフォローができると良いと思っています。



――ありがとうございました。

アル・カイル アカデミーとパキスタンについて

GC かがしま副理事長 川上由美子さんに聞く (3月14日)

2015年7月29日からグリーンコープの訪問団5名がパキスタンのアル・カイル アカデミーなどを訪問しました。訪問団のメンバーのGC かがしま副理事長の川上由美子さん取材させていただきました。川上さんは、3月まで副理事長で、4月からゆう*あいショップを担当されています。

――パキスタン訪問は、どんな行程だったのですか。

川上：夜中に着いて、丸4日

間パキスタンにいました。

訪問したのはアル・カイル

アカデミーの本校と分校、それからグリーンコープ

のファイバーリサイクル

センターから送った荷物

の荷降ろしの立ち会い、

バザール(市場)の視察、縫製工場、古着を仕分け

する大きな会社の視察、関係者の会社などを訪問

しました。いずれも移動に相当時間がかかるため、

その分、車窓からカラチ周辺のいろいろな様子

を見ることもできました。

――アル・カイル アカデミーはどんな場所にあるのですか。

川上：本校は日干し煉瓦でつくられた家が続くスラム街の中にあります。パキスタンでは戸籍制度も義務教育制度もなく、5歳くらいから15歳くらいまでの10年

間と予科2年の

後に大学に進む

制度のようです。

スラムの子ども

たちが教育を受けられるように

無料の学校アル

・カイル アカデミーが作られたのです。本校

は2部制です。午前中だけ授業を受ける子どもは

午後働いているし、午後に授業を受ける子どもは

その逆です。

本校はおよそ

2700人くらい

の子どもたちが

学んでいます。

イスと机がある教

室とカーペット

などを敷いている教室があり、小さな子ども

たちはカーペットの教室に直接座って

授業を受けます。先生は120~130人くらい

ですが、この先生たちが分校にも出向いて

授業をしています。



――ではアル・カイル アカデミーも同じ年齢の子どもが通うのですか。

川上：子どもたちは小さいころから家庭を助け、いろいろな仕事をしています。子守もその一つです。

だからアル・カイル

アカデミー

では、5歳以上の

子どもを学校に受け

入れるために、

3~4歳の子ども

も受け入れてその子

たちのために授業も

行っています。残念

ながら、上の学年に

行くほど男の子が

減り、10歳を超え

るとほとんどのこ

どもは働くことにな

ります。進級は年齢

ではなく試験です。

10年生(年齢でい

えば15歳)まで終

えるとマトリック

という共通試験を

受けます。

――アル・カイル アカデミーの子どもたちは生き生きと勉強しているのでしょうか。

川上：アル・カイル アカデミーの子どもたちは公立学校に通った子どもたちより成績が良いそうです。

公立学校の子ども

たちは平均55点程

度ですが、アル・

カイル アカデミー

の子どもたちは65

点くらいだそうです。

公立学校も無料な

のですが、先生の

給与が安くてバイト

に忙しいというよ

うな事情もあるよ

うです。マトリック

に合格して2年間の

予科学校に行くと

大学や専門学校に

進学できます。現

在卒業生がカラチ

大学(注：日本の

東大に相当)に6人

通っており成績も

良いということでした。

――少し前にグリーンコープでは組合員にカンパを呼び掛けて発電機を贈りました。

川上：パキスタンでは計画停電もあり、電力供給が不安定なので発電機をカンパで贈りました。電力事情は更に悪くなっており、不意の停電が増えて、発電機がとても役立っているということでした。

――分校はどんなところにあるのですか。

川上：カチュラクンディというところにあります。カチュラはごみ、クンディは場所という意味で、本当にゴミ山の中にありました。もともと砂漠のよう



て場になったようです。このゴミの中から、少しでもお金になるものを拾い出して生活する人たちが数千人住みついています。分校は、キャンパスⅡ・キャンパスⅢの二つの施設があります。キャンパスⅡはカチュラクンディの中ほどにあり、300人くらいが学んでいます。3歳児から低学年クラスがほとんどで、それ以上の年齢の子どもはキャンパスⅢに通うことになります。キャンパスⅢはカチュラクンディの入り口にあり、500～600人くらいが学んでいます。ここにはカチュラクンディだけでなく周辺の村の子どもも通っています。良い教育が受けられるということで、4～5km先から歩いてくる子どももいるようです。

――分校の様子をもう少し聞かせてください。

川上：キャンパスⅡは周辺がゴミの山です。乾燥しているのが腐敗臭はあまりしないのですが、ごみを燃やす煙の臭いと煙がモヤのように立ち込めている感じです。煙の立ち込めるゴミの山の中で、水牛・ヤギ・羊などが飼われていました。キャンパスⅡ・Ⅲの先生たちは本校からバスで通ってきます。授業は午前中だけです。



――縫製工場は学校の中にあるのですか。

川上：本校の中にあります。卒業した女の子たちの働く場所を作りたいということで、工業用ミシンが10台ほどありましたが、仕事がありませんでした。

――ファイバーリサイクルセンターから送った古着の荷降ろしに立ち会われたそうですね。

川上：荷降ろしに立ち会えるスケジュールで訪問しました。通関手続きも終わり、古着を倉庫に降ろす作業に立ち会いました。6人で3時間弱で降ろし、倉庫の中に古着を種類ごとに並べていく様子を確認しました。



――ムザヒル校長先生と、これからやりたいことなどを話されたそうですね。

川上：校長先生のお宅に泊めていただいたこともあり、お考えをいろいろ聞かせていただきました。良い先生を確保したいということでした。低学年の子どもはアル・カイル アカデミーで10年間学んだ生徒が教えることもできるが、高学年の子ども、それから予科学校などで教えるのは大学を出た先生が必要、そのためには一定の給与を保障する必要があるということでした。それから慢性的な水不足なので、井戸を掘るか数百メートル先

まで来ている水道につないで水を確保したいということでした。これ以外にも回収した古紙でボール紙を作る、生ごみをたい肥にするなど、資金稼ぎの副業をいろいろと考えておられるようでした。

――アル・カイル アカデミーの印象、これからグリーンコープとしてできることなどお聞かせください。

川上：厳しい環境にあるのですが、キャンパス内は整頓されていて、子どもたちは一生懸命授業を受けていました。3歳ぐらいの子どもも座って先生の指示に従っていました。今いる場所で懸命に生きようとしていると感じました。アル・カイル アカデミーが水の確保に苦労されていたので今度の訪問団のメンバーと「グリーンコープが行なった発電機のカンパのお金の残りが役に立ると良いね」という話をしました。縫製工場の仕事が無いようだったので、何かできないかと思いました。その後、グリーンコープの福祉ワーカーズがエプロンをまとめて発注していますが、グリーンコープで販売できるような衣類や小物で何か提携できないかと考えています。現地で布地を購入してきました。日本で売れるような、衣類や布小物・袋物の試作をして組合員の意見を聞き、商品の提案ができればいいなと思っています。

――訪問を通じて感想などがありましたらお願いします。

川上：カラチが古着市場ということで、今は古着を送るという支援ですが、アル・カイル アカデミーとは、民衆交易の関係ができれば良いなと思っています。訪問前は女性の権利があまりないと聞いていました。女性を人前に出さないということですので、私たちの食事のときも同席した男性陣がサービス全般を受け持ち、細やかに動き、よく働いていました。チャイ（ミルクティー）も男性が準備してくれます。古着商のワリーさんという人がいるのですが、奥様の具合が悪くて仕事を休んで看ているということでした。男女の役割のあり方が今の日本と違うだけで、簡単に男尊女卑とは言えないと感じました。また、カラチは砂漠ですが、広い国土にはいろんな地形や気候を含んでいるようで、お米や小麦・野菜や果物はバリエーションに富んでいます。小麦で作る薄焼きのパンも種類が多く、お米も普通の長粒種から“パスタを折ったのか”と思うほど長いものまで料理によって使い分けられていました。さまざまな香辛料やハーブを使い分けた料理に文化の奥深さを感じました。一方的に援助するという関係ではなく、文化を知りあって、対等に長い付き合いができれば良いと思いました。

――ありがとうございました。

ゆう＊あいショップ訪問 その①

GCふくおか ゆう＊あいショップ藤崎店を訪問しました(3月18日)



ゆう＊あい藤崎店は、グリーンコープ藤崎店のバックヤードだった場所を改装して作ったそうです。福岡市営地下鉄藤崎駅から徒歩で5分、藤崎商店街



の中ほどという立地です。グリーンコープのお店部分とゆう＊あいショップは内部でつながっており、それぞれでの買い物を楽しみやすい造りになっています。

労働協同組合ゆう＊あい福岡代表の田原幸子さんと藤崎店の鶴田佳子さんに、ゆう＊あい藤崎店のことだけでなくGCふくおかでのゆう＊あいショップ全般についてお聞きしました。

—このお店はいつできたのですか。

田原：2014年5月にできました。ゆう＊あいショップの開店できる場所はそれまでにもさがしていたのですが、藤崎店の横が空くというので出店させてもらいました。

—作業スペースにかなり使っているようですが。

田原：現状で4割くらい作業スペースになっています。ここがGCふくおかのゆう＊あいショップの拠点になっており、ここで衣類を管理して複数の



お店に送り出しています。久留米南町店の横にもゆう＊あいショップがあり、在庫衣類を持っています。お店としては、藤崎店、久留米南町店、ひまきの店(福津市)、下月隈店(福岡市)の4店で、

それ以外は、唐人町店、キープ&ショップ横浜(以上福岡市)、いとしま店(糸島市)、清水(きよみず)店(北九州市)、甘木店(朝倉市)、高雄店(太宰府市)、福祉用品店舗こまらんど(大牟田市)に常設しています。更に店舗や支部でのイベントなどにも出かけています。

—売り上げはどれくらいですか。

田原：ゆう＊あい藤崎店で移動販売(臨時の出店)も含めて1か月約30万円、全ショップ合計で年間約800万円の売り上げです。もう少したくさんの方にご利用いただきたいと思っています。

—衣類提供の受け付けもしているのですよね。

田原：GCふくおか全体で年間約2000件、13トンくらいの受付をしています。GCふくおかのゆう＊あいショップで売れるものは売り、それ以外はファイバーリサイクルセンターに送っています。

—このゆう＊あい藤崎店は、お客さんは組合員が中心ですか。

鶴田：組合員と一般の方が半々ですね。外国の方もよく来られますよ。それから衣類の持ち込みをされるのは6割くらいが組合員です。

—これからやりたいことなどを聞かせてください。

鶴田：ゆう＊あい藤崎店では、作業スペースを広く取りすぎているので、売り場を広げたいと思っています。お客さんで高齢の方も来られるので、テーブルとイスを置いて、ちょっとくつろげる場にもしたいと思います。GCふくおか全体でいえば、地域ごとに衣類を持ち込めるような仕組みを実現したいですね。また、労働協同組合ゆう＊あい福岡でキープ&ショップの運営を2か所受けているのですが、キープ&ショップに併設して売り場を作りたいです。そして、なんといってもこのファイバーリサイクルの取り組みを理解して衣類の提供や利用をしてくださる人を一人でも増やしたいですね。

—ありがとうございました。



田原幸子さん(右)と鶴田佳子さん

お送りいただきたい衣類等と送り方案内



お送りいただきたい衣類など

衣類は国内もしくはパキスタンで「着るもの」として販売しますので、日本のフリーマーケットで売られている程度のものでお願いします。中古品を送る場合、必ず洗濯をお願いします。もちろん新品大歓迎です。

●男性用衣類

上衣

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・スボン（長スボン、短パン、スウェットパンツ） ・Gパン ・カッターシャツ（長袖、半袖） ・カジュアルシャツ（長袖、半袖） ・ポロシャツ（長袖、半袖） ・Tシャツ（長袖、半袖） ・トレーナー | <ul style="list-style-type: none"> ・セーター ・スーツ（上下セットのみ、ネーム入り可） ・ジャンパー ・ジャケット（スーツの上着のみは不可） ・ベスト ・コート ・ネクタイ（新品に限る） |
|---|--|

下着

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・半袖シャツ ・ランニング ・フリース ・トランクス | <ul style="list-style-type: none"> ・長袖シャツ（新品に限る） ・靴下（新品に限る） ・パジャマ（新品に限る） |
|---|---|

男性衣類で受付できないもの

- ・作業着
- ・スーツの上着

●女性用衣類

上衣

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・Gパン ・スボン（長スボン、スウェットパンツ） ・ブラウス ・カッターシャツ（長袖、半袖） ・カジュアルシャツ（長袖、半袖） ・Tシャツ（長袖、半袖） ・トレーナー | <ul style="list-style-type: none"> ・セーター ・ジャケット（スーツの上着のみは不可） ・ジャンパー ・ベスト ・コート ・ワンピース |
|---|--|

下着

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジャー（中古も可） ・ガードル（中古も可） ・ボディースーツ（中古も可） | <ul style="list-style-type: none"> ・これ以外の下着（ストッキング・靴下・ショーツなどは新品に限る） |
|---|--|

ねまき

- ・パジャマ（新品に限る）※ネグリジェは不可

女性衣類で受付できないもの

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・スカート・キュロット・スーツ（上下とも）は受け付けていません。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジャー・ガードル・ボディースーツ以外の下着は新品に限る。 |
|--|---|

●子ども用衣類

- ・新生児～120cm（新品・中古とも受け付けています）
- ・120～160cm（新品に近いものを受け付けています）
- ・下着類
- ・布おむつ・おむつカバー

●衣類以外

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・毛布 ・タオルケット ・シーツ ※布団・マットレスは不可 ・布地（2m以上のもの、反物可、ハギレ不可） ・テーブルクロス ・カーテン・レースカーテン ・タオル・バスタオル・ハンカチ ・ハンカチ（中古も可） | <ul style="list-style-type: none"> ・スカーフ、ストール、マフラー ・エプロン（新品に限る） ・ベルト ・靴（学校上履きは不可） ・バッグ・リュック（ランドセルは不可） ・財布 ・ポーチ ・手袋 ・帽子 ・毛糸（新品に限る） |
|---|---|

●和服類

- ・和服・帯（正絹・麻・綿のみ。ウール・化繊は不可）
- ・ゆかた（寝間着は不可）
- ・和装小物（帯☆・帯揚・帯留め・バッグ等）
- ※和服類は国内でそのまま販売しますので、シミ・汚れのあるものは不可

●受付できないもの

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・制服、事務服、作業着 ・スキーウェア ・柔道着 ・ガウン ・学校上履き ・水着 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねまき（パジャマは新品に限る。その他のねまきや中古のパジャマは不可） ・布団・枕・クッション・マットレス類 |
|---|---|

※未使用切手・ハガキ、書き損じハガキ、プリペイドカード、テレホンカード等も受け付けています。

送り方

（専用送り状代金 600 円は自己負担です）

グリーンコープ組合員の場合

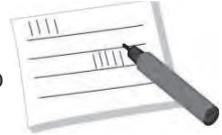
ヤマト運輸がご自宅まで集荷にお伺いします

1. 共同購入申込書の

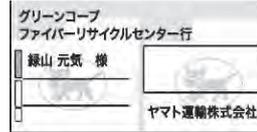
9988で申込み



※この時点で、600円が請求されます。



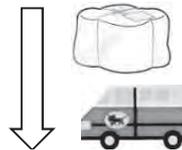
2. ヤマト運輸からご自宅にファイバーリサイクル専用送り状をお届け（申し込みから数日で）



お届けする専用送り状には、ファイバーリサイクルセンターの宛先情報と、申込者（組合員の住所や氏名）が印字されています。貼付するだけで出荷できます。

A: 衣類等の荷物が用意できていれば、その場で渡す。

B-1: 荷物が用意できていなければ、伝票を受け取る。



B-2: 後日改めてヤマト運輸に連絡して集荷をしてもらう。（90日以内に）

3. ファイバーリサイクルセンターに荷物が納品されます。

グリーンコープの店舗組合員、グリーンコープのエリアにお住いの組合員でない方

上記で説明の「ヤマト便の送り状システム」が使えます。ファイバーリサイクルセンターにお申込みください。お支払いは後日お送りする郵便振替用紙をお願いします。

それ以後の仕組みは、上記の「グリーンコープの組合員の場合」と同様です。

梱包の仕方

（1個600円の送料がかかります）

二重にしたポリ袋、または紙袋に入れ、ひもで十字にしばってください。



重さ: 25kg以内

大きさ: タテ+ヨコ+高さ=160cm以内

※段ボールには入れないでください。段ボールだとファイバーリサイクルセンターで荷崩れを起こします。

グリーンコープのエリア以外にお住いの皆様

宅配便を使ってお送りください。

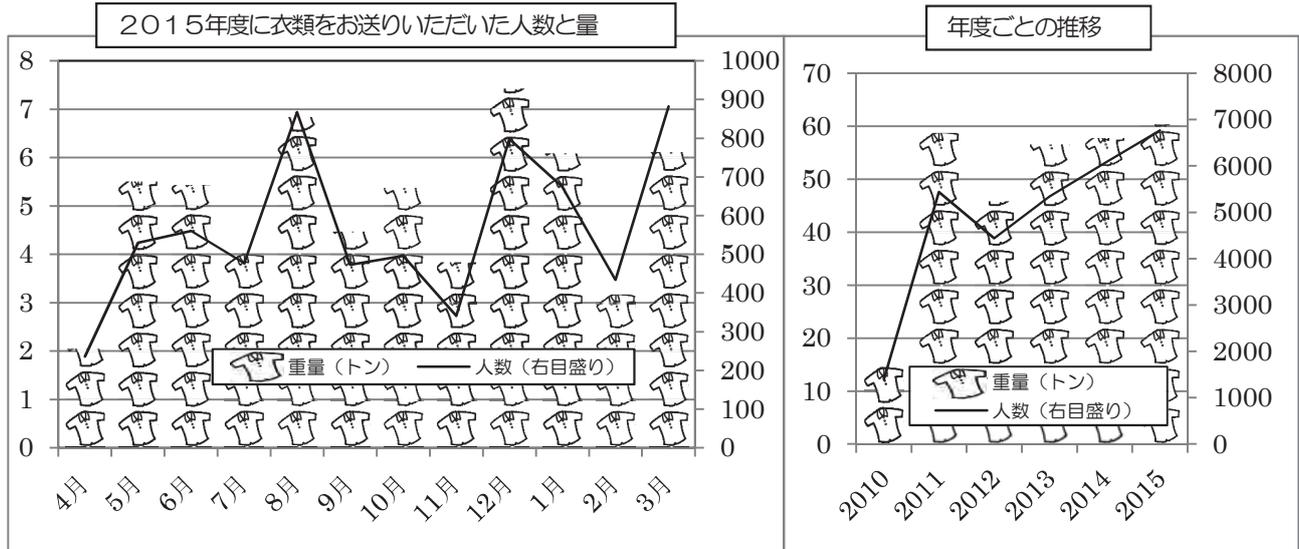
宅配便の会社はヤマト運輸でもそれ以外でも構いません。それぞれの宅配運賃は出荷される皆さんの自己負担となります。

ファイバーリサイクルセンター、ゆう*あいショップへの持ち込み

直接持ち込みも受け付けています。ファイバーリサイクルセンターもしくは、ゆう*あいショップにお問い合わせください。

お送りいただいた衣類の量と人数の推移

3月末日現在の累計重量294,285kg
延べ人数28,052人



ゆう*あいショップの案内

	ショップ名	住所	電話番号	運営主体	営業日	営業時間
福岡県	センター内ショップ	福岡市東区多の津1丁目17-2	092-623-0294	※FRC	月~土	11時~17時
福岡県	香椎店	福岡市東区香椎駅前2丁目52-1 セビアテラス西鉄香椎 2階	080-1530-8955	※FRC	月~土 (月曜日の祝日休み)	10時30分~17時30分
福岡県	藤崎店	福岡市早良区高取1丁目3-25	092-845-3331	G.Cふくおか	月~土	11時~17時
福岡県	久留米南町店	久留米市南4丁目27-31	0942-21-7800	G.Cふくおか	火~土	11時~17時
福岡県	ひまきの店	福津市日蔭野1丁目15-2-103号	0940-62-6006	G.Cふくおか	火~土	11時~18時 (土曜は15時まで)
福岡県	下月隈店	福岡市博多区東月隈3丁目3-9	092-504-6100	G.Cふくおか	火~金	11時~18時
佐賀県	本庄店	佐賀市本庄町本庄575-4	0952-27-3177	G.Cさが	月~土	11時~18時30分 (土曜は17時まで)
大分県	自由自在店	大分市大字寒田415-1	097-569-5929	G.Cおおい	月~土	10時~17時
大分県	高城店	大分市高城西町32-36	097-535-7054	G.Cおおい	月~土 (木曜休み)	11時~18時 夏期(4~10月) 11時~17時 冬期(11~3月)
熊本県	三里木店	菊池郡菊陽町津久礼2972-33	096-233-3741	G.Cくまもと	火~土	10時~18時
鹿児島県	谷山店	鹿児島市東谷山7丁目25-7	099-263-3335	G.Cかごしま	毎日	10時~19時
鹿児島県	枕崎店	枕崎市港町22	0993-73-5878	G.Cかごしま	火~金	13時~18時30分

※FRCは、ファイバーリサイクルセンターの直営です。
年末年始などの休みは、それぞれのお店に直接ご確認ください。

ファイバーリサイクル賛助会員と会費について

ファイバーリサイクル賛助会員募集中

賛助会員を募集しています。
会費は年間2000円です。
賛助会員には、ファイバーリサイクル通信をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員のお申し込みは、
共同購入申込書の9020で申し込みください。
申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して
引き落としとなります。

賛助会員は一度お申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

一般の方、グリーンコープの店舗組員

2000円を郵便振替で下記にお振り込みください。
郵便振替でお願いします。

郵便振替 01740-8-125558

ファイバーリサイクルセンター

下記のファイバーリサイクルセンターに電話をいただければ郵便振替用紙を郵送させていただきます。

ファイバーリサイクルセンター
〒813-0034

福岡市東区多の津1丁目17-2
ファイバーリサイクルセンター
電話 092-623-0294